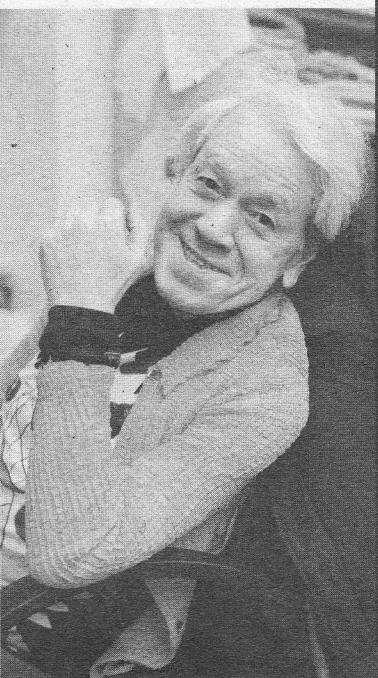


著者に直撃! BOOK

大人になるための「カゲキ」な教え『なんぞ? 納得できない...14歳のきみたちへ』が話題

志茂田景樹さん

読者は14歳に限らず
その前後の年代の人も、
大人や学校の先生にも
読んでもらえる内容です



PROFILE

しまだ・かけき 作家。1940年、静岡県生まれ。中央大学法学部卒。76年『やっこ探偵』で小説現代新人賞を受賞し作家となる。'83年『黄色い牙』で第83回直木賞を受賞。タレント、モデルとしても活躍し、「99年には『よい子に読み聞かせ隊』を結成、各地で絵本の読み聞かせ活動を行っている。近著に絵本『キリンがくる日』(絵・木島誠悟)など。

取材・文/成田 全

短文投稿サイト「ツイッター」で、人生への深い洞察や人々の悩みに答える言葉をつぶやいている志茂田さん。140字に込められたやさしさと厳しさ、そして明るい未来を感じさせる内容は、読む人の心をフッと軽くすると話題になっています。「最近、ちょっと疲れたなあ……」と感じたら、インターネットでぜひアクセスを!

14歳というのは大人 になるための通過点

「なぜ勉強しないといけないの?」と真剣な表情で聞かれたら、どう答えますか? 「学校の授業でいろいろなことを学ぶのは、本当に学ばなければ長い人生をちゃんと送っていけないからだ。生きるために学ぶ」

冒頭の質問にそう答えているのは、いろいろなことに悩み、なかなか答えを出せない年代を対象に書かれた『なんでも』。納得できない...14歳の『きみたちへ』の著者・志茂田景樹さんです。

「14歳前後というのは、大人になるための大きな通過点なんですね。中学1年までは小学生の延長ですから、親も子

どもを理解しているんです。でも中1の終わりから中2くらいになると、身心とも大きく変化が起こり、それまでの自我の下から新しい自我が芽生えてきて、相剋するんです。それは自分の意志ではない変化なので、本人も自分で自分がよくわからなくなってしまう不安が生まれるんです。

しかし、その新しく生まれた自我は、子どものときの自我を駆逐するのではなく、葛藤しながら融合して、新しい自我を構築していくんです

「僕としては、4割おせつかい、6割がやや恐る恐るのアドバイス、と理解してもらえばいいのかな、と思っています(笑)」。こうした疑問を抱くのって、とても自然なことだと思つうんです。だから押しつけではなく、大人になるために何を準備し、どう理解したらいいのか、その見方や考え方、頭に置いておいてもらいたい心がけやアドバイスとして書いたつもりです。こ

悩みの落とし穴に 落ちないために

この中学生のときをしっかりと乗り越えることがとても大事で、ここを上手に乗り越えられると、10代後半の思春期をちゃんと迎えられる、と志茂田さん。

「今の子たちは僕が14歳だった60年前より、身体は大きいし食べ物も違う、情報やものも豊かだし、知識もあると思うんです。でも人間ってよくできたもので、大人になるた

うもの?」「原発についてどうしたらいいと思つ?」「結婚ってどうしてするの?」といった内容。もし子どもに質問されたら、大人も「えーっと……」と答えに窮してしまいます。それは問い合わせに、まるで語りかけるようなやさしい口調で、志茂田さんなりの考えが語られています。

「僕がやや恐る恐るのアドバイス、と理解してもらえばいいのかな、と思っています(笑)」。こうした疑問を抱くのって、とても自然なことだと思つうんです。だから押しつけではなく、大人になるために何を準備し、どう理解したらいいのか、その見方や考え方、頭に置いておいてもらいたい心がけやアドバイスとして書いたつもりです。こ

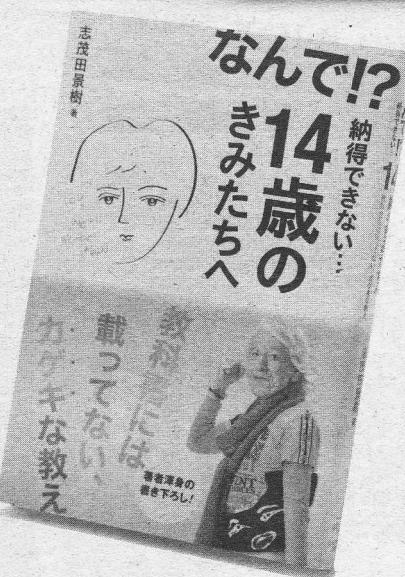
「なんで!? 納得できない…14歳のきみたちへ」
といふへ潜り込む必要ないの
に」と思うようなところまで
いつちやう。だから今の悩み
つて、昔とは質が違うんです
ね。僕らが若いころの悩みと
いうのは、生活の中でもが
き、それに心が敏感に反応し
たり、社会の中での階段を踏
みはずしたり、はじき出され
たり、阻害されたりすること
で悩み、絶望したんです。で
も今の若い人たちは、世間と
しゃべるだけ、今の人たち
は気分よくいい、自分の感
性が誰かに侵害されるのは嫌
だと考えている人が多いんで
すよ。だからそれが侵されて
しまうと、僕たちが思いもよ
らなかつた、気づかなかつた
落とし穴に落ちて、さらに潜

「僕らが若かったころは、友
達と哲学の議論をしたりし

てね、話が合わないと、よ
し、表に出ろ! ってケンカ
したもんだけ、今の人たち
の心中だけで悩んでいるん
ですね。だから一気に絶望す
るという感じではなくて、い
つまでも痛み引きずっと、
奥に入り込んで、心の病にな
ってしまう。そうやって心の
リズムが崩れてしまうと、整
えることがとても難しいんで

す」
世の中に閉塞感が漂い、こ
れまでの価値観が通用しなく
なっている現代。「どこを見
渡しても、旧態依然としたも
のが累々と重なっている今の
時代こそ、新しい価値観が必
要なんです」と志茂田さんは
語ります。

「僕らが気つかなかつたよう
な落とし穴にはまり込まない
ためにも、中学生時代の過ご
し方どもはとても重要な
ことです。だからこの本を読ん
でもうえると、どこかで納得
してもらえるんじゃないかな
と思っています。もちろん個
人差がありますから、ひとり
ひとり迎える年齢や準備の仕
方、答えは違うのです。で
も大人になるために必要なこ
とつて、今も昔も全然変わつ
ていませんよ」



『なんで!? 納得できない…14歳のきみたち
へ』 1260円／じゃこめてい出版

この日はトレードマークの
虹色ヘアに、たくさんのマ
イクが取り囲むデザインの
Tシャツ、ショッキングピンクの上着
をお召しになっていた『カゲキ、ファ

ッションの志茂田さん。スラッシュした体
形と体重は20歳のころと変わりないそ
うで、その秘密は日常で何気なくできる
運動をしていることだそうです。ちなみに志茂田さん、60歳で年齢をいったん
リセットし0歳から再スタート。「今が
出発点」という言葉とともに、今年で
14歳なんだそうです！

ライターは見た!
著者の
素顔

Tシャツ、ショッキングピンクの上着
をお召しになっていた『カゲキ、ファ

撮影／藏澄佑希